

福祉だより

ぬくもり

第119号
2021年12月19日

西宮市北六甲台地区
社会福祉協議会
会長 日高 昭夫

●発行/北六甲台地区社協 ●発行日/偶数月 ●編集/北六甲台地区社協広報部 ●配布エリア/北六甲台・上山口東



出発前に公智神社でミーティング

第一回福祉講座

コロナ禍、二年ぶりに講座を開講。感染者への用心から今回はアウトドアで催しました。

自粛期間が長引き出不精に慣れ参加者が集まるの心配でしたが、ほぼ定員に達しスタッフを含め二四名で催行。年齢を感じさせない八〇歳代、親、子、孫（六歳、四歳）三世代での参加者、西宮市健康ポイント事業での上位健脚者、膝に不調を抱えた人等、多様な一団が、小春日和の山口旧街道、有馬川緑道をゆったり散策しました。

皆さんには馴染みの道



明徳寺の阿弥陀如来立像

で、これまで漫然と見過ごしてきた景色、史跡だつたでしょう。当日は郷土史研究者として登場の地区社協会長の日高さんの蘊蓄を傾けた説明に、「へー、そーなんだ」と聞き入り歴史的なことや謂れを知り、私たちの地元をより関心を持って捉える事ができた思いがしました。



駅前橋（旧国鉄有馬線史跡）



散策マップ

第一回福祉講座

山口旧街道史跡探訪

研修部長 本村継男



山口の大ケヤキ

途中の明徳寺では、有難い事にご住職自ら寺の来歴やご本尊の国指定重要文化財・阿弥陀如来像等をご紹介頂きました。

何よりも良かったのは、昨今ためらわれがちの日常の会話ですが、今回の講座を通じて初対面の方同士が歩きながら言葉をかわすというコロナ禍前の何気ない日常の情景が目まで来た事です。これからはそんな触れ合いが生まれる機会を作りたい

きたいと思っています。

追）山口の大ケヤキ、真下から見上げると確かにデカイ！

なお、十二月十三日付、大阪日日新聞連載の「日本旅のペンクラブ・関西部だより」で、この度の講座が紹介されました。

地区ネット設立懇談会
地域コミュニケーション再生に向けて

地区社協会長 日高昭夫

地区ネット設立準備会

十月三十一日、地区ネットワークショップ（地区ネット）設立に向け地域の関係者による懇談会が開催されました。地区ネットは地区社協主催の地域グループの横断的な意見交換の場です。今回は地区ネットの運営の在り方について意見を伺う設立準備的な性格の懇談会でした。十四グループ十九名の出席がありました。

地区ネット設立の趣旨

地区ネットの設立趣旨は地域コミュニティの再生です。少子高齢化、單身世帯化、共働き世帯増等の環境変化が、自治会退会者増、子供会・婦人部の解散、既存組織の役員体制弱体化等の地域組織の弱体化を招いています。そのため地域の様々な困り事や問題が埋もれがちです。高齢者、障が



い者、介護者、子育て等への地域支援が行き届かなくなります。そこで既存のグループが自由に意見交換できる場を設け、活動や情報を共有し、参加者の悩み事、困り事、相談事の対応をはかることを目指しています。

懇談会の活発な意見交換

懇談では「気になっていること」「こんな会になったらいいな」等をメモしてもらい、順次報告されました。参加者の思いの籠った活発な発言が相次

地域交流拠点との関係は？

最後に、地区社協会長の私から次のような「まとめ」をしました。

①地区ネットの役割について共生型地域交流拠点との関係や違いが問われた。地区ネットは地域の困り事等の共有と対応が主たるテーマで、交流拠点は全住民対象の居場所と交流、活動の受け皿という違いはあるが、一層の整理が必要。②運営については、自由に参加でき、多様な意見が気軽に話せること、地道に継続すること等の期待があった。③新たな課題として、効果的な情報共有のためホームページやSNSが活用できる環境づくりや、意見を吸収しづらい若者層の参加を促す取組みが必要。

二時間余りの多様な活発な意見が交わされた懇談会でした。

ぎました。その後の意見交換では、会の役割や運営の在り方について質問や意見が交わされました。

認知症カフェにこころ丸山カフェ

ミニライブのオンライン交流会

十月二十八日、コロナ感染者数が二桁に減少したこの日、山口公民館で丸山カフェ会場と、セントポリア愛の里、山口地域包括支援センター、幸泉サンス、山口苑、ななくさ白寿荘の六ヶ所をオンラインで結び音楽コンサートが開催されました。

冒頭に、足立丸山カフェ代表と武藤山口地域包括支援センター長の挨拶があり、その後六ヶ所の画面が映り出され、互いに手を振りあいながら交流しました。

セントポリア愛の里のスタッフ主導で初めに「さだなみドラム」の楽器を使った体操を参加者全員で行いました。皆さん体をほぐされると、スタッフの大坪さん、田邊さん、松永さんによる「オー・シャンテリゼ」の演奏が行われました。

次に、三人の「里の秋」のコーラス、引き続き「旅愁」「ちいさい秋みつけた」「秋の夕暮れ」がギターやピアノ演奏を交えて歌われました。

各会場代表のじゃんけんでのリクエスト等のゲーム感覚の歌もありました。

最後は、アンコール曲「ありがとう」の歌で締めくくられました。

その後公民館内では、十一月に定年退職される武藤センター長の労をねぎらい花束が足立代表から贈られました。

（広報部 小出）



コロナ禍の鎮静化「各事業部活動が再開！」

地域交流部「ふれあい喫茶」

北六甲台



コロナの為、自粛していた「ふれあい喫茶」が十月十三日(水)再開しました。当日は、緊急事態宣言は解除されたとはいえ、いらしていただけるだろうか?天候は?と色々とお陰で皆様の御協力のおかげで再開にこぎつけ、一安心したところです。十一月十日の再開二回目の喫茶では、前回以上の来場者があり、着実に



再開後の手応えが感じられました。また地区社協の役員のお母さんと一緒に大学生の息子さんも来場されました。喫茶で初めて見られた若者男性の嬉しい来場でした。今後は、より一層の感染対策を講じ安心して、お越し頂ける様頑張ります。又、季節に応じたお菓子や楽しいイベントも計画中です。どうぞ皆様お揃いで、煎りたてのコーヒーを飲みながら、御歓談して頂ける会場の場、地域交流の場として根付いていくことを願っています。(地域交流部 小池)



上山口東

八カ月ぶりに上山口東ふれあい喫茶を開催しました。コロナ禍で長い間、開催出来ずにいたのでもれ位の人に来て下さるの不安ではありませんでしたが、沢山の方が参加して下さいました。久しぶりに顔を合わせながら、一人暮らしの方などのお元氣な顔が見られ、ボランティアのメンバーも少し安堵しました。お話しする中「最近はお話してないわ〜」



「ゆっくり皆さんとお茶出来て楽しかったわ〜」「あ〜今日はよく笑った」と、嬉しそうに話されていたのがとても印象的でした。賑やかに笑う声や笑顔があふれ、それぞれのテーブル毎に会話に花が咲き、暖かい雰囲気で開催することが出来ました。このままコロナが落ち着き、普段の生活に戻ってほしいと心から思っています。(地域交流部 山本)



子育て支援部「ともだちつくろう」

今年度初めての「ともだちつくろう」が開催されました。十ヶ月ぶりの開催だったので、どれくらいの子どもさんと親御さんの参加があるのか予想がつかず心配する中で、十月二十二日(金)に八口ウインパーティーを開催しました。



当日は、六組十三人の親子の参加があり、ホッとしました。やはり子どもさんの楽しそうな声を聞くことが良かったです。これからもクリスマスなどイベントが沢山あります。コロナ禍の中で今後どれだけ

障がい者支援部「青い空」



「青い空」は、障がいのある人もない人も、ともに集い、ともに話し合い、楽しく時間を過ごすこと、毎週月曜日午前十時から午後三時まで、北六甲台安心プラザA室で開催しています。コロナ禍で長時間の集まりや蜜の状態での昼食の懸念もあり、現在は午後一時から三時までの短縮開催となっています。参加者の中で、いつも参加されていたあるグループホーム入所の方は、外

「ともだちつくろう」が開催できるか判らないですが、沢山の親子が参加してくれてありがたいなと思います。沢山の方の参加をお待ちしています。今回は、名塩東山台「ククアぽぽ」の子育てコンシェルジュ柴田さんが参加されました。有難う御座います。(子育て支援部 高崎)



部施設への外出にまだ許可が下りず、寂しがっておられます。また、午後

募金事業部

だけの開催で、参加が時間的に無理な方もいらっしゃると思います。参加人数が少ないことから活気に欠け、少し寂しさの感じられる「青い空」です。



コロナ禍二年目の募金事業部の活動として、十月に「赤い羽根共同募金」を実施しました。昨年の共同募金の活動は「ふれあい喫茶」のみでしたが、今年は嬉しいことに「ふれあい喫茶」に加えて、「コミュニティセンター」での「ともだちつくろう」や、「安心プラザ」での「いきいき体操」の三会場に募金箱を置かせて頂くことができ、コロナ禍にお

どなたでも大歓迎です。活気づけに少しの時間でも結構ですので、一度覗いてみて頂ければと思います。(障がい者支援部 井上)

ける募金活動の輪が広がりました。各スタッフの皆さんのご協力のもと、沢山の方々から寄せて頂いた「赤い羽根共同募金」は、兵庫県及び西宮市の様々な福祉活動に役立てられます。災害には、被災者を支える活動にも活用されます。真心の募金、有難うございました。(募金事業部 山脇)

赤い羽根共同募金報告

ご協力ありがとうございました。

募金額 20,594円

